

## 第 62 回 広島大学教育学部国語教育学会 プログラム

日時 2021 年 8 月 11 日 (水)  
11:00 (受付 10:30) ~17:00

会場 広島大学教育学部 L205 講義室及びオンライン (Zoom) (ハイブリッド形式での開催)  
参加費 500 円 (学生は無料)

研究発表 (午前) 11:00~12:00

1. 国語科目標論史に関する一考察

—興水実「基本的指導過程」の実践的展開を中心に—

広島大学大学院生 皆尾 賛

2. 俳句作りの指導の実践—俳句甲子園出張講座を中心に—

広島大学大学院生 樫本 由貴

昼休憩 12:00~13:10

総会 13:10~13:40

研究発表 (午後前半) 13:50~14:50

3. 単元『竹取物語』を読むの学習指導

~主体的で対話的な深い学びを目指して~

広島県立可部高等学校 黒瀬 直美

4. 古典文法教育への提言

小林 正樹

休憩 14:50~15:10

研究協議 (午後後半) 15:10~16:50

国語科における「資質・能力」を育成する「言葉による見方・考え方」の学び

【司会】

広島大学 間瀬 茂夫

【報告・提案】

広島県教育委員会高校教育指導課 山田 和大

広島大学附属中・高等学校 加藤 健伍

岡山県教育庁高校教育課 大塚 崇史

【お願い】 参加費は、できるだけ事前にお振り込みください (別紙参照)。

※なお、オンラインでの参加を希望なさる方は、国語教育会ホームページに設定した Forms の URL にアクセスしてください。参加申し込みと参加費振り込みについてのご入力を確認後、メールにて大会参加のための Zoom の URL をお届けします。

## 【研究協議会趣旨文】

次期学習指導要領の告示及び「解説」の刊行などを受けて、これからの中学校・高等学校の国語科教育実践を考えていくために、本学会の研究協議では、2018年（第59回）「中学校・高等学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」、2019年（第60回）「中学校・高等学校国語科における「主体的・対話的で深い学び（2）」というテーマを設けて議論をしてまいりました。

2018年に刊行された次期の高等学校学習指導要領解説の「総則編」には「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である」とあります。解説「国語編」には、とくに国語科に即して次のように述べられています。

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。（22-23頁）

この引用から「言葉による見方・考え方を働かせること」は、「国語科において育成を目指す資質・能力」を生徒が身に付ける条件として考えられていることがわかります。「言葉による見方・考え方」そのものが「資質・能力」ではなくて、「資質・能力」を身に付けるための手がかりだと考えることもできます。さらに解説には次のような記述もあります。

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。（4頁）

こうしたことは、中学校国語科にも高等学校国語科にも求められています。では、国語科ならではの物事を捉える視点や考え方とはどういうもので、それは国語科において育成すべき「資質・能力」（知識・技能、思考力・判断力、表現力等、学びに向かう力・人間性等）とどのように関わるのでしょうか。次期学習指導要領に言う「深い学び」の鍵となるこの問題提起は本学会で探究してきた国語教育実践の課題と重なるものです。そしてなぜ他ならぬ国語科の学習がわたしたちにとって必要なのかということを改めて考える契機になる問題提起であると考えられます。日々の実践をもとに一緒に考えましょう。

以上

※なお2022（令和4）年度の研究協議会は

### 中学校・高等学校国語科のあたらしい授業にどう取り組むか

を予定しています。2022（令和4年）4月より高等学校のあたらしい学習指導要領の実施となり、国語科では必修科目「現代の国語」「言語文化」の授業が開始されます。この時期にみなさまと協議することが有意義なテーマとして設定いたしました。趣旨文は広島大学国語教育学会ホームページに掲載いたしますので、ご覧いただき、ご報告を希望される方は事務局宛にご連絡下さい。